

GAKUIN CAMPUS LETTER

学院キャンパスだより 17

Contents

八戸大学

人間健康学部公開講座で健康力アップ

八戸短期大学

幼児保育科によるゼミナール研究発表会を開催
平成22年度新入生宿泊研修

光星学院高等学校専攻科

資格取得を目指して小型移動式クレーン講習を実施
スノーボード同好会を紹介

光星学院高等学校

学校生活・生活指導の根幹は体育から

体育科は新しい試みに挑戦している。

学力と人格の向上を目指す「スキルアップクラブ」

野辺地西高校

本校恒例のスキー教室開催

人間福祉系列3年による「卒業演奏会」開催



八戸大学・八戸短期大学

合同学位授与式を挙 行

平成21年度八戸大学・八戸短期大学学位記授与式が3月18日(木)、光星学院総合体育館において挙 行され、卒業生に学位記が授与された。

今年度の卒業生は大学ビジネス学部ビジネス学科67名、人間健康学部人間健康

学科72名、短大幼児保育学科89名、ライフデザイン学科25名一人ひとりに学位記が授与された。学位記授与に続き、理事長賞など名誉の紹介を行い、八戸大学・八戸短期大学を代表して鈴木宏一学長の式辞、中村覺理事長の挨拶、小林真市長



の祝辞が述べられた後、卒業生代表謝辞が述べられた。卒業生代表謝辞では、八戸大学ビジネス学部ビジネス学科の大村晃弘さん、八戸短期大学幼児保育学科の工藤ゆかりさんが謝辞を述べた。

その後、卒業記念品の紹介が行われ、最後に学歌と式歌を卒業生および八戸短期大学在学学生が斉唱し、学位記授与式は終了した。その後は、卒業生と教職員が共に記念撮影を行い、和やかな雰囲気にも包まれた。



合同入学式を挙 行

平成22年度八戸大学・八戸短期大学入学式が4月6日(火)、八戸市公会堂にて挙 行され、八戸大学新入学生114名(ビジネス学部59名、人間健康学部55名)と編入学生2名(大学編入学)、八戸短期大学入学生222名(幼児保育学科99名、ライフデザイン学科31名、看護学科92名)の入学が許可され、学生としての第一歩を踏み出した。

入学式では、八戸大学・八戸短期大学を代表して蛇口浩敬学長の式辞、中村覺理事長の挨拶、小林真市長の祝辞が述べられた後、八戸短期大学附属聖アンナ幼

稚園の園児や八戸大学・八戸短期大学の在学学生による歓迎の言葉が贈られ、新入生を代表してビジネス学部の高田大介さん(三沢商業高校出身)による入学生宣誓が行われた。

最後に八戸短期大学在学学生による式歌「ハレルヤ」が斉唱され、式は終了した。式終了後には、八戸大学および八戸短期大学の学歌がそれぞれ披露された。



八戸大学・八戸短期大学の建学の精神と 八戸大学の校章の由来・教育理念について

建学の精神(八戸大・八戸短大)

「神を敬し、人を愛する」

八戸大学・八戸短期大学は、カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔な人格の形成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することを建学の精神とする。

八戸大学の校章の由来と教育理念

「大学」の文字を、神に対する敬愛の心を象徴する「しゅろの葉」で囲んだものである。

しゅろは、高いことが神の知恵に、ま



た、常緑の葉、美味なる果実、長生の故に義人にたとえられ、木の弾力性から勝利を表すものとし、キリストがエルサレムに都入りしたとき、群衆が「しゅろの葉」を手にし、ホザンナを連呼して盛んに迎え入れたと伝えられている。

教育理念

教育基本法及び学校教育法に基づき、カトリック精神にのっとり、広く豊かな教養をもち、正しい道德観と高い知性を有する青年の育成に努め、21世紀の要求している人間の形成、特に地方時代の到来にこたえる地方文化、地域経済に密着した教育をすることを理念とする。

FDワークショップ開催

第2回八戸大学FDワークショップが平成22年2月9日(火)、八戸大学8号館831教室を会場に大学・短大の教員39名が集まり、開催された。

学内においてのFDワークショップの開催は2回目であり、また八戸短期大学と初めての合同開催で、各グループ5・6名で7グループが編成された。

当初は戸惑いも見られたが、今回テーマに「学生の立場を考えた役に立つシラバスとは何かー学生の講義参加意欲向上のためのシラバス作りー」を設定したこともあり、各グループとも活発な討論が70分間にわたり行われた。その後、各グループが順に発表し、質疑でも活発な意見交換が行われた。

最後に、今回のFDワークショップに対するポストアンケートを記入してもらったところ、テーマに対する関心が高く、教員間の交流にもなり、参加して良かったとの回答が多く寄せられた。



パソコン教室開催

3月11日12日、パソコン教室「Power Point 入門講座」が開催された。パソコン教室は、総合研究所と財団法人高度技術振興センターが共催で実施しているもので、これまで文書作成ソフトや表計算ソフトなどを取りあげてきた。今回は、開催要望が増えてきている、プレゼンテーションソフト（Microsoft Power Point）の入門講座である。

2日間に渡り実施されたパソコン教室には、初めてプレゼンテーションソフトを利用する受講者10名が集まった。1日目は、自己紹介のスライド資料を作成しながら Microsoft PowerPoint の基本操

作とスライド作成の基礎を確認。最後に一人ずつ演者となりプレゼンテーションを行った。2日目は、企業紹介スライドを作成。実際の企業写真やパンフレット等のデータを加工し、受講者それぞれのスライド資料を完成させ、1日目同様プレゼンテーションの実践を行った。



ITコミュニティ作りを目指して IT教育研修会開催



2月16日、「IT教育研修会2010～DOKIDOKI～」が開催された。IT教育研修会は、八戸地域のITコミュニティ作りを目指し、平成13年より始まったもので今回7回目。

研修会は、村本卓 総合研究所副所長の挨拶で始まり、最新技術やネットモラルなど3セッションにより進行。それぞれ講演を行った後、参加者との質疑応答が行われた。

研修会終了後の情報交換会では、普段の授業での悩みや問題を共有、情報教育への理解と交流を深めた。

セッション1

「Windows 7 の全貌」

（講師：マイクロソフト株式会社

東北支店 曾田直弘 氏）

セッション2

「地デジ最新情報とテレビ業界の動向」

（講師：株式会社八戸テレビ放送

企画管理部 江刺尚人 氏）

セッション3

「ネットいじめの現状とその対策」

（講師：株式会社ビジネスサービス

JOMON インターネット事業部

小山康輝 氏）

「八戸大学」OB&OG訪問 part17



青森県立野辺地高等学校
宿野部 昭裕さん

プロフィール

平内高等学校出身・八戸大学商学部卒（18回生）。県立高校の事務を経験したのち平成22年度より野辺地高等学校の非常勤講師となる。

Q：学生時代の思い出

A：Web 技術に興味があり、空き時間はいつも友人と総合研究所で Web サイト作りや画像処理の勉強していました。そんな友人達とサークルを立ち上げ、企業の Web サイト作りに没頭したことが思い出です。当時の友人とは今でも連絡をとりあっています。

Q：先生を目指したきっかけは？

A：もともとコンピュータを扱うことが好きだったので、人へ教える機会が多かったです。大学の紹介で教育活動支援員を経験させてもらったことが先生を目指すきっかけでした。まだ授業の補助役

が多いですが、先輩の先生方からたくさん学び、一人前の先生になれるよう頑張りたいです。

Q：休日は船に乗っているそうですね？

A：親がはたての養殖業をやっているのです。休日は船に乗って気分転換しています。

Q：在学生へメッセージをどうぞ

A：社会人になってからは仕事に追われ、なかなか自分のしたいことができなくなります。在学中は、自由が利くので、自分のやりたいことを沢山つけていろんなことにチャレンジしてください。経験したことは、社会で役に立つでしょう。がんばってください。

人間健康学部公開講座で健康力アップ!

公開講座は人間健康学部の重要な事業の一つです。この公開講座実施の推進力となっているのは本学部の地域共同研究です。今回、このようなプロジェクトの成果の一端が披露されました。平成22年3月6日(土)午後、本学総合研究所の協力を得て八戸商工会館を会場として開催しました。司会は遠藤守人教授です。地域の健康力アップを目指した本講座のテーマは、「三八地区における健康影響の近未来予測」でした。個別テーマは以下のとおりです。

1. 都道府県及び市町村の各種の福祉計画について(石川 彪)



2. 介護従事者が考える介護労働の価値(篠崎良勝)
 3. 大学生による高齢者支援の効果(小幡佐久子)
 4. 八戸民俗芸能「えんぶり」囃子の心理学的効果(畑山俊輝・深澤伸幸・金地美知彦)
 5. 積雪寒冷地における健康・体力づくりについて(三本木 温)
 6. 八戸市の子どもは運動不足?(三島隆章)
 7. 青森県の保育所におけるアレルギーの実態について(瀧澤 透)
 8. 八戸地区住民の疾病および死因について(吉田 稔)
- 当日の来場者数は80名で、多様な年齢層の参加者の中には行政や施設の職員の方も多く見うけられ

ました。盛会であった裏には健康志向の高まりがあるようです。来場者のコメントには、「先生方の研究の概要がわかりおもしろかった」「もっとお話を聞きたい先生もおり、また開催して欲しい」などがありました。今後ともこのような皆さんのご期待に応えられるよう努めていきたいと思っています。

(人間健康学部長 畑山記)



八戸地域医療セミナー

八戸大学・八戸短期大学教育・研究・社会貢献後援会(会長 橋本昭一八戸商工会議所会頭)と総合研究所共催による「八戸地域医療セミナー」が、平成22年2月19日に八戸第2ワシントンホテルで開催された。

セミナーは、社会貢献後援会と総合研究所が年に1度開催しており、今年度は看護学科の開設などもあり、非常勤講師の派遣などで交流があり青森県とも関係

が深い、聖マリアンナ医科大学理事長・学長の明石勝也先生が「地域医療の一層の発展のために」と題し講演。

明石理事長は、病院勤務医の不足や地方の医師不足など、医療現場の抱えている問題に対する、聖マリアンナ医科大学での取り組みの紹介の他、「日本一の医師たちを青森で育てる」ための提言を行いました。

講演終了後は、総合研究所の蛇口所長

(当時)を進行役に、明石理事長との意見交換会を開催。

八戸市医師会の村上壽治会長をはじめとする医師や病院関係者、行政関係者、施設の設置者などから活発な意見表明がされました。

セミナーには、八戸短大看護学科の学生や八戸大人間健康学部の学生も参加し、熱心にメモをとっていました。



加藤三彦氏によるバスケットボール講演会

平成22年2月26日八戸グランドホテルにて、八戸大学・八戸短期大学総合研究所 スポーツ・健康科学研究会の公開セミナー「加藤三彦氏によるバスケットボール講演会」が八戸大学創立30周年イベントとして、(株)GANBAX 様の協力のもと開催された。

当日は寒さ厳しい中、市内外の学生や教員・指導者など約100名が参加した。

始めに主催者を代表して、八戸大学・八戸短期大学総合研究所 スポーツ・健康科学研究会代表の三本木 温 八戸大学人間健康学部准教授が挨拶し、講師の加藤 三彦氏を紹介、加藤氏は「これからの指導者に求められるもの」と題し、時代（社会）・選手が指導者（コーチ）に要求していること・コーチングとは・

勝つための条件など20項目にわたって力強く語った。参加者は熱心にメモを取りながら、加藤氏のコーチング哲学に聞き入っていた。

最後に「頑張っている選手がさらに成長できるように支援してほしい、コーチングの勉強で自分自身を成長させてほしい」と加藤氏は参加者に伝えた。講演終了後も

加藤氏を囲み意見交換するなど、有意義な講演会となった。



GO! GO! Be-Labo

4月から学生サークル「Be-labo」が出演するラジオ番組がスタートした。「Be-labo」は、2008年10月から『八大学生・八短生が作る番組「ハチバン！」』（八戸テレビ放送コミュニティチャンネルにて放送中）を自主制作している。

今回スタートしたラジオ番組は、「Be-laboの“はっちゃけ大作戦！”」。毎回メンバーにミッションが与えられ、次回放送までにミッションを遂行し、結果報告をするというもの。コミュニティFM放送局「Be-FM」にて毎週放送されている。奮闘結果は放送で。

番組制作に取り組む一方で、本学軽音楽部とのチャリティーライブ運営にも力を入れている。第1回目のライブは2月21日、田子町（代表西村祐哉さんの出身地）の多目的ホール「タブコピアンプラザ」にて開催された。軽音楽部の他、田子町の高校生バンドや社会人バンドも出演。「Be-labo」は司会役と運営を担当した。入場料は、来場者自ら決定し支払う仕組みとし、収益金の一部は田子町の社会福祉協議会や田子高校郷土芸能部の全国大会遠征費へ充てられた。今後は定期的な開催を目指している。



Be-labo からのメッセージ

八戸のまだ知られていない魅力を、違った視点で表現できればと思っています。街で見かけた際は、ご声援よろしくお願いします！

Be-labo の“はっちゃけ大作戦”

放送局：コミュニティFM放送局「Be-FM」
放送日：月曜日 15:45-16:00
水曜日 21:30-21:45
(再放送)

八大学生・八短生が作る番組「ハチバン！」

放送局：八戸テレビ放送
コミュニティチャンネル
放送日：第2第4金曜日
11:00・19:00・22:00
第2第4土曜日
8:30・15:30・19:30

ミニ・オペレッタ

ミニ・オペレッタは、幼児の行う小歌劇という意味で、大人の歌劇と根本的に違う点は、集団と集団の歌の対話により劇が進行して行く総合芸術表現という点である。保育士を育てる養成校として学生達が自信を持って職場で活躍出来る“技術・能力”を身に付ける事を願って平成14年度から実施し、今年も2月に八戸市公会堂で発表会を実施した。

学生達は全てにおいて工夫を凝らし、

手作りから仕上げまでの実践活動を行っている。これらが①子供達に受け入れられるか、また、②職場にて胸を張って働けるか、③技術・技能の基礎はこの指導で大丈夫なのか、さらには、④総合芸術としての専門知識・理解力・認識はあるか等々学生達は検討しながら、身体から漲る表現・演出を模索しつつ実践し発表会した。幸いにも八戸短期大学附属幼稚園をはじめ聖アンナ幼稚園、びわの幼稚園、第二しなのめ幼稚園が私どもの力強い実践の場となっており、学生達の行動、表現力に大きな力が加わり、自信に満ちた和がひとつになり力強いエネルギーを発揮することができた。そして、子ども達に受け入れられた達成感・満足感によって、ようやく保育士としての自覚・風格が備わってきたように感じられた。

園、第二しなのめ幼稚園が私どもの力強い実践の場となっており、学生達の行動、表現力に大きな力が加わり、自信に満ちた和がひとつになり力強いエネルギーを発揮することができた。そして、子ども達に受け入れられた達成感・満足感によって、ようやく保育士としての自覚・風格が備わってきたように感じられた。



ゼミナール研究発表会開催

平成22年1月13日(水)八戸大学会館において、八戸短期大学幼児保育学科によるゼミナール研究発表会が開催された。ゼミナールは、10名前後の少人数で行っており、研究テーマは「手遊び・お遊戯」教

材作成と事例検討」「青森県の肥満傾向児について～保育における運動遊びから対策を考える～」など、中身が濃く多彩なテーマの研究発表が行われた。このゼミナール研究発表会は約1年半にわたる研究活動としての集大成の場として位置付けられ、学生たちは、今まで一緒に研究をしてきた仲間と気持ちを一つにし、楽しく元気に発表していた。

学生全員の前で行う発表は、学生たちの良い経験と

なり、そして自信にもつながっているようである。



はちのへ子どもフェスタに参加

1月31日(日)に第5回はちのへ子どもフェスタが開催された。はちのへ子どもフェスタは、次世代を担う子ども達が、家族の絆や地域の温かい見守りの中で、遊びや仲間づくり、体験活動・各種の文

化・芸術活動などを通して、豊かな心を育むことを狙いとし、はちのへ子どもフェスタ実行委員会が主催となり、八戸市教育委員会、八戸市公会堂が共催となり行っている。このはちのへ子どもフェ

スタに本学の学生がボランティアスタッフとして毎年参加している。

この日の会場は、八戸市公民館全館、八戸市文化ホール、八戸市公会堂の3会場で開催され、約3000名もの来場者でたくさんの家族連れで賑わっていた。ボランティアスタッフとして参加した学生は、エプロンシアターの実演、子ども百貨店で子どもの対応、総合案内や各団体ブースでの手伝いに大忙し。多くの方々と触れ合うことができ、貴重な時間を過ごすことができたようである。



新

入

生

宿

泊

研

修

4月16日(金)～17日(土)1泊2日の2日間、十和田市の奥入瀬渓流ホテルにて新入生宿泊研修が行われた。この合宿を通じて、新入生相互ならびに教職員・リーダー学生との親睦を図るとともに、八戸短期大学学生としての学生生活及び学修の方向付けを身につけるという二つを目的とし、今年で4回目の開催となった。

1日目はエンカウンター、学科研修、学生会歓迎セレモニーが行われた。エンカウンターでは、外崎学長補佐にご指導いただき、リーダー学生が中心となって、「ジャンケン列車」「自己紹介と他己紹介」

「アイスブレイキング」「人間知恵の輪」など6種類を実施し、他者と協力し合い自分を表現することで、より深いコミュニケーションを体験できたようである。エンカウンター終了後は自由時間と称して、奥入瀬の大自然を散策したり仲間とのコミュニケーションを楽しんだり、リフレッシュできる企画が今年度から設けられ、各々で自由時間を有効に活用していた。

学科研修は、各学科オリジナルな内容が企画され学科内の親睦が図れたようであった。

2日目は学歌指導と流し踊り実技指導が行われた。学歌指導では音楽担当教員が中心となり、リーダー学生が補助につき指導にあたった。流し踊りでは、八戸小唄流し踊りのDVD視聴を終えた後、リーダー学生が中心となり体育担当教員が補助について新入生の指導を行い、7月の本番に向けた練習ができた。

2日間のプログラムを無事に終えた新入生たちには、入学時からの緊張を緩和させ、新たな仲間と共に希望に満ちた充実した短大生活を送って欲しいものである。



資格取得を目指して 小型移動式クレーン講習

自動車科では、三月に1年生を対象として、小型移動式クレーン講習を実施しました。

全三日間の日程で、学科講習二日間の後、三日目は実技講習です。

学科講習ではテキストを用い、「小型移動式クレーンに関する知識」「原動機および電気に関する知識」「運転に必要な力学に関する知識」のほかに、ワイヤロープ・運転の合図・労働災害事例・関係法令などを学びました。

初めて耳にする言葉や数値を覚えなければならぬ大変ですが、学生は皆、資格取得のため講師の話に真剣に耳を傾けていました。

最終日の実技講習では、大雪の降りし

きる悪天候の中、実際に一人ずつクレーンを操作して荷物を移動させ、目標に下ろす操作方法を身体で覚えました。

そして、最後の実技試験では全員が合格し、資格を得ることができました。

今後もこのような資格取得の機会を大事にし、就職へ向けてスキルアップを図りたいと思います。



介護福祉科卒業生と在校生との懇談会

去る3月5日に卒業生と在校生との学生支援懇談会が専攻科で行われた。

目的は青森県の介護福祉士の人材確保



の一環で学生の介護職への意欲を高め即戦力の人材の輩出である。

卒業生13名、在校生20名であったが、卒業生・在校生相互に刺激された様だった。

第9回生の和田吉彦さんと2年生の鶴ヶ崎修子さん、1年生の高洲美沙都さんと懇談会の企画を練ったが、終始一貫して卒業後和田さんが研鑽を積まれた様子が伺えた。

当日は懐かしい面々が揃い、山西副校長の挨拶に始まった。

午前中は卒業生と在校生が一緒の小グループとなり、「1年後・3年

後・5年後・10年後の将来像」についてワークをし、全体発表した後に質疑応答が盛んに行われた。

お弁当を一緒に食べ、午後は在校生による学生生活の映像に懐かしいと言う声があったり、よさこいの踊り・ゲームに歓声が上がりが大いに盛り上がった。

在校生の感想は、先輩のアドバイスを適宜受けて卒業後のイメージができ、また、2年生は卒業直前の不安軽減や疑問が解けたようで、他職種との連携のあり方の実際、先輩の進学に自分も進学しようという心を決めたり、働いてからも常に勉強だと実感したという事でした。

1年生は何事も基本が大切だという事、自分を変えて生きたい、今日描いた自分を実現できるように頑張りたい等であった。

卒業生の感想としてはリフレッシュができた、幾分マンネリ化していた仕事を初心に戻って考えられて良かった等でした。

卒業後の人生を逞しく、弛まない努力をしている事が凛とした態度に表れていた。

介護現場で働く卒業生と道を志す在校生が一同に会し、懇談を持つことの成果は期待以上のものであった。

今後も機会を設けたいと考えた一日であった。



自動車科就職ガイダンス 企業説明会

学生に対する就職ガイダンスの一環として2月26日(金)、八戸大学学生会館の2階会議室において、光星学院高等学校専

攻科自動車科1学年(22名)を対象に企業説明会を実施しました。

参加企業数は県内外合わせ11社、各社

ご多忙中にもかかわらず参加していただき、盛大に開催することができました。

本校としてはこの時期に説明会を実施するのは今回が初めてであり、今年度としては2回目となります。(1回目は2学年を対象に21年5月に実施済)

1学年の学生達が企業の方々と面談するのは初めてのため、最初は緊張ぎみに聞いていた学生達も時間が経つにつれ和やかな雰囲気となり、会社の概要や仕事内容について様々な質問をしたりして、4月から始まる就職試験に備える真剣な姿が見受けられました。

今回、学生間から全般的に内容の有る充実したものであったとの声があり、この説明会は就職に向けての意識が高揚するとともに、たいへん有意義な就職ガイダンスとなりました。



スノーボード同好会

専攻科学生会の同好会のうち、今回は「スノーボード同好会」の活動をご紹介します。

21年度は自動車科2年生が3名、介護福祉科2年生が3名および自動車科1年生が1名の合計7名で活動しました。

活動は、積雪が十分な時期に限られるため、1月からの実施ですが、この時期は、自動車科の2年生は国家試験に向けて、介護福祉科の2年生は全国共通模試や研究発表などで忙しくなる時期でもあります。

そのため、なかなか調整がつかず、2月に奥中山高原スキー場に出かけたのみとなりました。

それでも学生たちは皆、残り少ない学生生活を楽しもうと、寒さや疲れも気にせず時間いっぱいスノーボードを満喫してきました。

競技目的の同好会ではないため、上級者から初心者までが楽しめるスノーボード同好会を今後も継続し、いつかは学生会行事として、全校学生で出かけてみたいものです。



平成22年度スタートにあたり



12月1日、粉雪が舞い散る薄暮に、この時期地域の方々の心を潤す、生徒会と吹奏楽部によるクリスマス・イルミネーションの点灯式が女子生徒の大歓声の中で行われました。

それから新しい年を迎えて間もない1月、本校初めての試みである推薦入試により45名の生徒が合格。続く2月、3月の一次、二次入試を経て、春の新たな息吹きとともに4月7日、今年度333名の新入生が入学式を迎えました。その中に

は、法官校長自ら訪れ姉妹校を結んだカンボジアからの留学生、タン・チェンターさんの姿もありました。

本校に関心を持ってくれる中学生の為に、という思いからカンボジアと縁ができ、カンボジアの人々のために光星学院が井戸を掘った。

そして今、一人の生徒を受け入れ生活、文化の違いを乗り越え地球上に同じく生きる者として、同じ高校生として一緒に成長してほしい。地雷の中を命をかけて登

校し学ぶカンボジアの生徒の姿から何かを感じてほしい。法官校長の思いがここにある。昨年、北海道大学を筆頭に複数の国公立大学に、そして青山学院、法政といった有名私立大学に多くの合格者が誕生しています。

創立から数えて55回目の入学式を終え、850名の生徒とともに平成22年度がスタートしましたが、大きな飛躍へのエネルギーと新たな幕開けの予感を感じたのは私だけではないと思います。



全国大会に出場しました！

レスリング部



平成21年3月27日～28日。新潟で行われた第53回全国高校選抜レスリング大会個人戦において、60kg級佐藤恵亮（工業技術コース3年・長者中出身）と96kg級栗谷川寛（進学コース2年・八戸第一中出身）の2名が出場した。

60kg級佐藤は、2月の東北大会前に左手を骨折する最悪の状態。そんな悪条件の中、執念を見せ全国の出場権を勝ち取った。試合展開は終始、佐藤のペースで流れたが、勝負所で

自滅による失点を重ねてしまう。明らかに緊張していた。経験不足を痛感した内容であった。96kg級栗谷川は、初めての全国大会に果敢に挑んだが、力及ばず全国の壁を思い知らされた。両選手とも初戦敗退。全国で勝つための課題は山積みではあるが、これ以上負けたくない。全てにおける基本の徹底こそが今すべきことであると感じた。

全国選抜大会の団体戦に出場できないのは、8年ぶりのことである。全国制覇を目指し戦う県代表チームとしてではなく、観客として見ている自分の姿に生徒全員が唇を噛んだ。『夢を見・夢を追い・夢を喰らう』この言葉を胸に高校総体では、必ず王座奪還することを誓う。

去る3月、大阪で行われた弓道選抜大会女子個人戦に、本校の北城幸子（福祉コース3年・鯉中学校出身）が出場しました。本人はもちろん、監督の私自身も初めての全国大会。「とにかく、こんなチャンスは二度とないかもしれないから、気負わずに楽しんで弓を引いてこよう。」と、少々不謹慎な目標を立て大会に臨みました。

しかし、全国の舞台は私たちに楽しむ余裕を与えてくれませんでした。会場の凛とした空気、気迫溢れる選手から放たれるオーラ・・・。「大きく、伸び伸びと、からだ全部を使って。」監督席でそう祈ることしかできない私でさえも緊張で体が震えました。結果は4射1中。予選通過の3中には届きませんでした。戻って

弓道部

きた本人から出た言葉は、「頭が真っ白になり、何が何だか分からないうちに終わってしまいました。負けて帰るのは悔しいです。」

初めて見せた悔しさでした。

今回の大会で得たことがたくさんあります。また、課題も見つかりました。そのような貴重な経験ができたこと、そして、先生方、生徒のみなさんから温かい励ましをいただいたことに心から感謝しています。

今後はどんな大会でも、後悔することのない、負けても精一杯がんば

れたと自分を褒められるような試合が出来るよう、精進したいと思っています。



柔道部

3月20日、21日に日本武道館で試合が行われました。1日目は個人戦でした。初戦の相手は愛知県代表で、結果は始まってすぐ払い腰で投げられましたが、その後技有りを取り返し、逆転に成功しました。しかし、終盤に押さえ込まれてしまい一本負けをしました。試合を通して、柔道の完成度をもっと高めていく必要があると思いました。

2日目は団体戦でした。初戦、広島県代表の清水ヶ丘高校と対戦しました。先

鋒戦、途中押さえ込まれ有効が入り、最後まで攻めましたが取り返すことができず優勢負け。中堅戦は序盤に相手の内股で投げられ一本負け。大将戦は払い腰で技有りを取り優勢勝ち。結果、2対1で敗れてしまいました。団体戦では初めての全国大会ということで会場の雰囲気にもなれていました。これからは大きな大会でも自分たちの力が全部出し切れるように稽古を頑張っていきたいと思います。

今年度は男女合わせて10名以上が入部



しました。そのお陰で今まで以上に稽古ができるようになりました。今年度の県大会では全て優勝し、全国大会でも勝てるチームにしていきたいです。応援ありがとうございました。

（ビジネスコース3年・中村梨穂）

体育科の取り組み

学校生活・生徒指導の根幹は体育からという言葉通り、体育科への期待が年々高まっている。そのため我々体育科では、新しい試みに挑戦している。

新学期の始まりと共に、集団としての迅速な行動の仕方や、正しい姿勢づくりを徹底している。また、自分の体力を7要素で判定する新体力テストでは、自分の体力がどの程度であるかだけでなく、3年間で体力レベルがどのように変化したかも記録している。系列校である八戸大学人間健康学部の三本木氏を中心としたデーター考察を、高大連携の一環として、本校の授業に取り入れた。

体育的行事の代表である「スポーツフェスティバル」では、競技力の向上は元より、ルールに則り楽しく競技を実施することに重点を置いている。秋の光星祭では、授業で取り入れている広いジャンルのダンスが披露されイベントを盛り上げ、思い出深い行事になっている。

冬季には、長根リンクにおいて、1年生対象のスケート授業を行っている。「氷都」八戸ならではの冬の授業であり、意外にも、一度も経験のない生徒も多く、皆が積極的に滑走していたのが印象的



であった。その他にも、体育館の上の自慢のマラソコース（一周140m）を利用した、「光星マラソン」と題した20分間歩くことなく自分のペースで走る持久走。基本～応用、長縄跳びにわたるまで課題をひとつひとつクリアする「縄跳び検定」など、明確な課題を与えて全クラス共通理解のもとに行うよう工夫を凝らしている。

生徒の精神的安定、ストレスの発散になればと「昼休みの体育館の開放」も体育科職員で順次行っている。生涯スポーツや運動習慣のきっかけになればとも思っている。以上のような様々な取り組みを今後も継続して行っていくが、更に時代のニーズにも対応した取り組みを続けて行ければと考えている。



新体力テスト「長座体前屈」



体育館「ランニングコースにて」



「上体起こし」

ビジネス科 工業技術科

企

業

訪

問

ビジネス科・工業科の昨年度最後の取り組みとして、企業訪問を実施した。生徒は、学校では学べない社会勉強の機会を得て、今後の学校生活にも大いに役立つ体験をしたようだ。生徒たちの感想文がそれを物語っている。

「3月17日、ビジネス科1、2年生（現2、3年生）で、㈱サン・コンピューターと帆風八戸センターを訪問した。サン・コンピューターでは建物内の見学をし、各部屋に様々な目的や工夫があることを知り、とても良い勉強になった。また、社長さんのお話も大変興味深く、実社会の厳しさを知り、普段の学校生活では学ぶことのできない貴重な知識を得ることができた。帆風八戸センターでは、最新の印刷技術を取り入れた絵画の展示を見せてもらい、素晴らしさに驚いた。今回

の企業訪問を通して、今後の進路決定について高い意識を持つことができたように思う。」

（ビジネスコース
2年・斗澤優希）

「訪問先のトヨタ小野グループサービス㈱では、リアルな現場を見ることができた。最初に、車体修理の作業場。壊れた車を修理している姿はプロなんだと感じられ、自分もこの様に働けばいいなと思った。次の、塗装の作業場では、思っていたより匂いがきつく、思わず鼻を覆った人もいた。先生が“手で見る”と言ったのが印象に残っている。その後もB P事業の流れ通りに、学校の勉強では学べない事を学んだ気がする。この訪問の経験を活かすためにも、国家試験に合格し三級整備士になる事が目標だ。高校生活も残り一年で就職や進学などを考える時期にこの様な訪問ができ、本当に良い経験だった。」

（自動車整備士コース
3年・亀田宗誉）



「原燃りサイクル施設を見学して、今回学んだことは、エネルギーを作る難しさだ。私たちの暮らしには電気が必要不可欠だ。しかし日本は、電気を作るためのエネルギー資源に乏しいため80%以上を海外からの輸入に頼っている。そのため特に輸入依存度の高い石油の代替エネルギーとして、原子力発電が約3割を占めるようになった。その燃料であるウランには、核分裂しやすいものと、しにくいものがあり、ウランは再利用できることを今回の見学で学んだ。」

（工業技術コース3年・工藤大稀）



スキルアップクラブ

大学進学を見据え、学力と人格の向上を目指すことを目的とし昨年度発足したスキルアップクラブ。現在部員は特別進学コースの生徒のみであるが、コースとは別の独立した一部活動である。

これまで、放課後の学習活動や市内企業を訪問・見学する「地域研修」などに取り組んでおり、ここでは最近の活動状況等を報告したいと思う。

去る3月、八戸市国際交流員であるアリサ・トビン氏を招き異文化共生についての国際交流授業が行われた。英語での自己紹介や、「日本を外国人にとって住みよい国にするための政策」についてのディスカッションを通して普段の授業では得られない刺激を受けたであろう。

また、昨年度は北海道大や山形大などの国公立大をはじめ、青山学院大、法政大、獨協大などの有名私大合格者も多く輩出し、特進のみならず、スキルアップクラブとしても今年度へのはずみがついた形となった。

今年度は、豊かな人間性を育むべく、昨年以上に多種多様な課外活動を取り入れていく方向である。一人でも多くの生徒が希望進路を達成で

きるよう、担当職員が一致団結して活動の活性化に臨んでいく所存である。



平成22年度入学式挙行

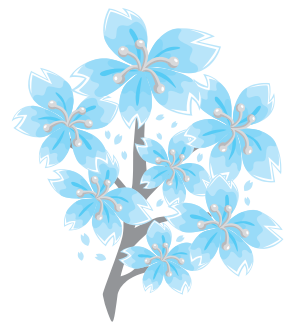
春とはいえ、まだ肌寒い4月8日(木)、本校体育館において124名の新入生を迎えて平成22年度入学式が挙行された。入学者数は前年度とほぼ同数であった。(前年度入学者120名)。

系列ごとの入学者は、産業技術系列の工業系が31名、オートメカニック系が13名、人間福祉系列が25名、教養進学系列が55名の内訳であった。

入学式において、学校長は「学ぶ姿勢」や「目標を持つこと」などを訓示し、新たなスタートについての新入生の前途を祝福した。

理事長から激励の訓示、野辺地町町長から励ましの言葉を頂き、新入生の諸君は期待と不安・緊張の表情で真剣に話を聞いていた。

新入生を代表して飯田愛菜さん(小湊中学校出身)が、校則を守り、良き生徒として努力することを誓って式は終了した。尚、今年度も系列中心の5クラスの編成となった。



青森県人ならスキーくらいできるといい！

～ スキー教室開催～

このほど、本校恒例のスキー教室がまかど温泉スキー場で2月26日(金)に開催された。好天に恵まれ、良好のコンディションの中、1・2年生対象のスキー・スノーボードの講習(午前)およびフリー滑走(午後)が行われた。

実施に先立ち、教頭から「(他県の人から)青森県人は当然スキーができるだろうと言われる。しっかりスキーをマスターしましょう！」と激励の言葉があり、講習が開始された。のへじスキースクールのインストラクター(講師)の指導の下、基本の徹底と技術向上を目標に半日講習を行なった。参加者は楽しく技術講習に汗を流していた。

参加した生徒たちは「講師の人に基礎を習って、できるようになった」とか「スキー教室があと一回くらいあればいいの」など感想を述べていた。

来年も冬のスポーツに親しむ機会を増やして、「雪国の人はスキーができる」

と言われるようにしたいと担当者は述べている。



卒業演奏会



このほど、人間福祉系列3年による「卒業演奏会」が開催された。この行事は人間福祉系列恒例のもので、音楽レッスンの授業における3年間の成果を発表するものである。

3年生35名が自分の好きな曲を選び、先生方、人間福祉系列の1・2年生の前で演奏するものである。曲目はクラシックからJ・ポップやアニメの曲まで幅広い選曲であった。

演奏を終えた生徒の感想は、ほぼ全員が「緊張した」のオンパレードで、「前日から緊張して、当日の演奏も焦りから大変だった」「とてもいい経験をした」など、緊張と充実の一日を振り返っていた。

聴き手の後輩の感想も「一生懸命の演奏に感動した」「来年は自分の番だから頑張る」などたくさんの賛辞が聞かれた。一生懸命さの伝わる演奏に、約100名の聴き手の方も好印象を持って最後まで聞き入っていた。



八戸短期大学附属幼稚園

感性を豊かにする演奏会

弥生3月、「ひな祭り会」が開かれ、楽しいひとときを過ごした。特に今回はプログラムに「お琴の演奏会」が加わり、子どもたちは、初めて見るお琴に目を輝

かせ、その美しい音色に聞き入った。

これまでの「ひな祭り会」では、歌を歌ったり、ひな祭りの由来を題材にした劇を演じるなどして、伝統行事に親しん

できた。今回、生田流正派雅慶会を主宰する、八戸市在住の久保雅慶先生のご厚意で、お琴の演奏会が実現した。お琴の素晴らしい生の演奏にふれ、「子どもたちの感性を、より豊かにする」という、日頃の願いが叶う機会をいただいた。

八戸市を中心に広く活動している生田流正派雅慶会から、先生を初めとする6人の方々にお越し頂いた。童謡「うれしいひなまつり」や、「おもちゃのチャチャチャ」などを聞き、お琴の演奏に合わせて歌も歌うという、楽しく素晴らしいひとときを過ごした。また、演奏の後に体験の時間を設けて下さった。子どもたちはステージに上がり、雅慶先生やお弟子さんのご指導で、お琴の演奏を初めて体験し、大喜びだった。

これからも、素晴らしい生の演奏にふれる機会を、積極的につくっていききたい。



聖アンナ幼稚園



お母さんのための 『モンテッソーリ教室』開催



こどもの発達の中で、ある時期、顕著に興味をもつ敏感期の一つに「言語」がある。今回の教室は、子どもが言語とよい出会いが出来るよう人的環境である大人が発達段階を知っておく事により良い形で援助する事に役立つのではという願いを込めて開催した。

こどもの言語は、置かれた環境の中で沢山の言葉を聞きながら言語を獲得すると言われている。こどもは音節しか発音しない時期を経て単語全体を発音するようになり、ついにはあらゆる構文と文法

を使いこなす迄になる。教室では理論にも触れ、更にお母さん達に実際にこども役になってもらい教具教材を使って進めた。見ているととても緊張している様子が伺えお母さんたち自身も苦笑い。簡単そうだと思っていたのと少し勝手が違うようだが真剣である。話し言葉から書き言葉に移行する課程を実際に提供の経験をしながら、教具教材の意味やそれらが系統立っていることを理解したようだ。そして、「いきなり難しいのを押しつけていました」「もっと早い段階にこのこ

とを知りたかった」等の感想が聞かれた。

こどもの言語への道筋は生まれた時からゆっくりと進められている。最終的には自分の気持ちを伝えられるようになるのである。知識よりも感じる事をしているという事を大人は忘れてはいけない。先走りするのでは無くこどもにあわせて援助していく事が心の育ちに繋がっているのだという喜びを大事にしてほしいと思っている。



第二しなのめ幼稚園

だ い い あ き

おかあさん世界一

幼児の生活は毎日が自分を表現すること。

園生活の中で子どもたちの表現をみると飽きることがありません。

文字も言葉も少ない幼児期に自分が見たこと、思ったこと感動したことを様々な表現を通して身近な人に伝えています。私たちは、子どもたち一人ひとりと愛情深く接しながら、子どもの表現の世界をしっかりと受け止め、一緒に共感しながら自分を表すことの楽しさを知らせていきたいと考えています。

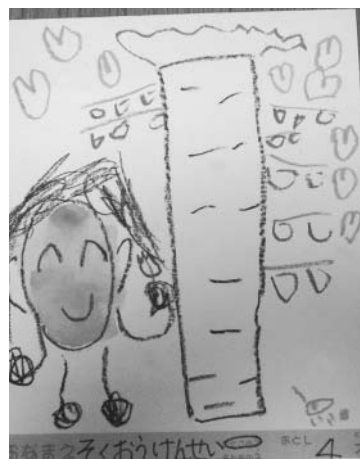
4月。入園後の子どもたちの中には

「おかあさんに会いたい」と自分の気持ちを口に出したり涙を見せたり。新年度の初めての保育参観日は、お母さん大好ききの思いを伝えるために、お母さんの顔を描いてみました。さくらの花びらの中にいる素敵なお母さん。お花を摘んでくれたお母さん。子どもたちが思っている、感じているが声にださない愛情が、まさに指導して担任教師への伝言となり、園内に張り出されています。

この日は、母の日にちなんで、カーネーションアレンジメントをお母さんと一緒に楽しみました。お母さん達の笑顔も素

敵ですね。

表現は多種多様です。絵に限らず、自分のことを語ったり、友だちと一緒に歌ったり踊ったり、作ったり。受け手である私たちは保護者の皆さんと一緒に、子どもの心をじっくり読み取れる包容力を養うよう心がけながら、子どもたちのしなやかな感性を伸ばしていきたいと思っています。



びわの幼稚園

右見て
左見て



交通安全教室

また右見て

びわの幼稚園では、4月9日(金)に始園式、10日(土)に入園式を挙行政し、お蔭様をもちまして、22年度も年少さん11名、年中さん13名、年長さん15名の合計39名の園児で教育活動をスタートしました。

本園では、約82%32名の園児がスクー

ルバスで登降園しており、約18%7名の園児がご父兄に送迎され通園しております。

園では、4月、例年に無く寒い日が続いたため、屋外での学習活動は少なく、主に園内での活動が中心でしたが、園児

の安全を願い、休日が続き、暖かさも予想され、屋外に出る機会も多くなるゴールデンウィークを目前とする4月27日(火)に交通安全教室を開催しました。

交通安全教室は毎年、ヤマト運輸株式会社さんのご協力のもと実施しており、今年も野辺地、横浜営業所から合計10名のスタッフをお迎えしました。

教室では宅配便のトラック模型、信号機の模型、横

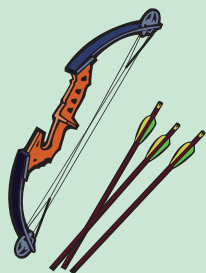
断歩道シートなどが準備され、子供に扮したスタッフのボール遊びや、もし、車の前に飛び出したら？などの演技を通し、わかりやすく次の3項目について指導を受けました。

1. 車の下には絶対に入らないこと。
2. 車の前には絶対に飛び出さないこと。
3. 正しく横断歩道を渡ること。

特に、正しい横断歩道の渡り方については、「右見て」「左見て」「また右見て」と園児たちは、パンダやトラの着ぐるみをまとったスタッフと手をつなぎ、安全を確認しながら横断歩道を渡る体験学習をしました。

最後に、「おうちに帰って、お父さん、お母さんにも教えてください。」というスタッフの掛け声に園児たちは大きな声で「はい」と答えておりました。

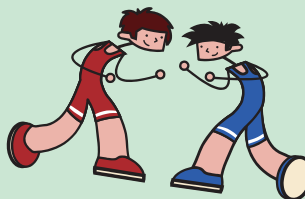




弓道部



柔道部



テニス部



レスリング部



第17号表紙

光星高部活動の練習風景

光星高校陸上部は、2010年度（平成22年度）新入生16名の新入部員を向かえ新たなスタートを切った。写真は、種差海岸を颯爽とトレーニングをする陸上部員である。



学院キャンパスだより第17号

発行 学校法人光星学院

編集 学院広報編集委員会

〒031-8566 青森県八戸市美保野13-98

TEL 0178-30-1411

URL <http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>